

田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著「やさしい教育原理 新版」

有斐閣アルマ、有斐閣 2007年12月25日刊を読む

## 教育とは何かを考える

1. 私たち一人ひとりの経験は、たいへん狭いものです。この授業を通して、空間的な広がり、時間的な広がりの中で、自分の経験を主体化し、同時に客体化しながら、なるべく独りよがりにならないように、偏見から自らを解き放し、教育とは何かを考えていくことにしましょう。
2. 教育には文化をみんなのものにするという本質があります。そのためには、個別の自習ではなく、集団的な学習が不可欠です。この授業自体を通して、みんなで学ぶ——共同の学習の意味が発見できるようにしたいものです。私たちは自習や個別教育をするためにわざわざ教室に集まってくるわけではありません。目的や課題を共有する人たちが集まっているということに意味を与え、そこに現れてくる力を発揮させることができるようにしたいものです。
3. ところで先ほど、私たち一人ひとりの経験は狭いということを述べました。私たちは教育を考えると、私たちの体験から出発せざるをえません。私たちの体験しているのは、現代日本の教育です。偏差値にずっと苦しめられてきたので、多くの人が学校教育は点とり競争ときってもきれいなものになっていると感じていると思います。自分自身の経験を通して、教育にマイナスのイメージをもっている人たちが増えているようです。にもかかわらず、皆さんはこの(教育原理の)授業を自ら選び取ったわけです。この、にもかかわらず、ということが、たいへん大切だと思います。動機は人によってさまざまなはずですが、現実と動機の間にある大きなギャップに気がついて戸惑っている人もいることでしょう。このギャップにどう橋を架けるか、という問題に、これから皆さんは直面していくことになるのです。
4. 私たちは自分の経験を通してものごとを理解しようとしています。これは人間がものを考え始めるときの常です。教育とは何か、という問題を考えるときも、私たち自身が受けてきた教育と、そこで考えたことから出発することになります。しかし、自分の経験だけに縛られていては前に進めません。ものごとをより深く理解するためには、まず、自らの経験を他者の経験と交流させながら、自らの経験を相対化、客観化してみることが大切です。身近な友人だけでなく、別の社会に生きている人たち、さらには過去に生きた人びとにまで交流の範囲を広げていく必要があるでしょう。この対話と交流の輪が広がるほど、私たちの精神は自由になり、偏見から解放され、ものごとの本質がよりはっきり見えるようになってきます。この方法は経験の主体化という点でも大きな意味をもっています。経験を主体化しなければ、経験は単なる知識にとどまってしまう。経験を通して自分が変わるといふ出来事が起こらなくなってしまいます。勉強でも同じことがいえます。この主体化の問題は、生き方や考え方(思想)の形成と深く関わ

っています。

5．教育とは何かという問題を考えるにあたって、私たちの発想の出発点が現代日本の学校教育に大きく影響を受けていることを、しっかりと認識しておきましょう。現代教育は、ある時代のある社会に現れた、教育のひとつの形態にすぎません。不易流行という言葉があるように、そこには普遍性と特殊性が混在しています。私たちの体験だけをもとにして教育とはこういうものだという結論を導くのは、きわめて危険なことです。そして、そのことをじつは皆さんも心の奥で察知しているからこそ、問題が複雑に絡み合っていて簡単には解けそうもない教育という世界に、にもかかわらず、足を踏み込んでみようという選択をしたのだと思います。

6．以上のようなことを念頭において、教育について考え始める第一歩として、次のような問いを自分自身に問いかけてみてください。——私は、どうして教育に関心をもったのだろうか。私はどうして教師になりたいと思うようになったのだろうか。それは私が教育をどのようなものとして、とらえているからなのだろうか——。

7．この問いが皆さんのこれからの学びの出発点をつくってくれるでしょう。「教育の基礎理論に関する科目」の授業が終了したときに、再び同じ問いを自分に向けて発してみてください。哲学者であり教育学者であった林竹二は「学ぶことは変わること」といっています。授業をはんさで、皆さんの教育についての考え方はどう変わることになるのでしょうか。

- 「はじめに」より -

#### [ コメント ]

教育とは何かを考えると、教育についての身近な出来事や自分自身の体験だけではなく、日本各地や外国での取り組みや、日本をはじめとする教育についての人類の歴史を知ることは不可欠と考える。Return To Basic(基本にもどる)、この「教育原理」のテキストはそのことを教えてくれる。

- 2009年6月14日林明夫記 -